

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2017年11月10日
【四半期会計期間】	第14期第2四半期（自 2017年7月1日 至 2017年9月30日）
【会社名】	大陽日酸株式会社
【英訳名】	TAIYO NIPPON SANSO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 市原 裕史郎
【本店の所在の場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	(03)5788-8060
【事務連絡者氏名】	管理本部 財務経理部長 梶谷 和之
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区小山一丁目3番26号
【電話番号】	(03)5788-8060
【事務連絡者氏名】	管理本部 財務経理部長 梶谷 和之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第2四半期 連結累計期間	第14期 第2四半期 連結累計期間	第13期
会計期間	自 2016年4月1日 至 2016年9月30日	自 2017年4月1日 至 2017年9月30日	自 2016年4月1日 至 2017年3月31日
売上収益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	268,782 (135,346)	305,714 (154,852)	581,586
税引前四半期利益又は 税引前利益 (百万円)	24,534	27,681	50,176
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	16,469 (9,988)	17,671 (10,060)	34,740
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	5,617	24,543	40,733
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	310,322	371,300	351,576
資産合計 (百万円)	818,641	938,315	924,281
基本的1株当たり四半期 (当期)利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	38.06 (23.08)	40.83 (23.25)	80.28
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益 (円)	-	-	-
親会社所有者帰属持分比率 (%)	37.9	39.6	38.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	27,423	38,706	74,596
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	98,110	27,428	147,082
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	62,888	20,978	80,777
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	38,171	43,851	52,857

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上収益には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。

3. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

4. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（2017年4月1日から2017年9月30日まで）における世界経済は、中国では不動産投機の抑制や過剰設備が懸念されるものの、政府主導のインフラ投資などが景気拡大を下支えしています。米国では、8月の大型ハリケーンの被災により化学、石油、石炭等の生産活動に悪影響を及ぼしましたが、雇用・所得環境の改善を背景に、基調的な景況は底堅く見られております。わが国経済は、自動車・半導体関連を中心に輸出が増加する中で、生産活動は増加傾向であり、企業収益は徐々に改善し、景気は緩やかに回復しております。

このような状況の下、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上収益3,057億14百万円（前年同期比13.7%増加）、コア営業利益293億5百万円（同13.8%増加）、営業利益296億4百万円（同14.1%増加）、親会社の所有者に帰属する四半期利益176億71百万円（同7.3%増加）となりました。

なお、コア営業利益は営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出しております。

セグメント業績は、次のとおりです。

なお、セグメント利益はコア営業利益で表示しております。

国内ガス事業

産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガス（酸素・窒素・アルゴン）の売上収益は、主要関連業界である鉄鋼、化学向けを中心に堅調に推移しました。また、機器・プラントの売上収益は、前期に空気分離装置の大型案件を計上した反動により減少しました。

エレクトロニクス関連では、電子材料ガスの売上収益は、液晶パネル・半導体関連向けに需要が増加し、好調に推移しました。

エネルギー関連では、LPガスは、輸入価格上昇の影響で販売価格も上がり、売上収益は前年同期を大きく上回りました。

以上の結果、国内ガス事業の売上収益は、1,574億79百万円（前年同期比3.3%増加）、セグメント利益は、143億34百万円（同1.0%増加）となりました。

米国ガス事業

産業ガス関連では、2016年9月から連結しているエア・リキード社からの買収事業による大幅な収益貢献がありました。既存事業においては、パッケージガスの売上収益は減少しましたが、バルクガスの売上収益は、炭酸ガスの出荷増もあり増加しました。

以上の結果、米国ガス事業の売上収益は、843億78百万円（前年同期比29.5%増加）、セグメント利益は、64億21百万円（同35.4%増加）となりました。

アジア・オセアニアガス事業

産業ガス関連では、シンガポール、マレーシアは減収となりましたが、2016年12月に連結子会社化したオーストラリアのスパガス社による業績への寄与がありました。

エレクトロニクス関連では、電子材料ガス及び機器・工事の売上収益は、台湾を中心とする需要増により、前年同期を大幅に上回りました。

以上の結果、アジア・オセアニアガス事業の売上収益は、495億46百万円（前年同期比31.2%増加）、セグメント利益は、48億42百万円（同87.8%増加）となりました。

サーモス他事業

サーモス事業は、国内でケータイマゲの販売が堅調に推移し、売上収益は順調に増加しました。

以上の結果、サーモス他事業の売上収益は、143億10百万円（前年同期比 6.4%増加）、セグメント利益は、46億49百万円（同 8.1%減少）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は9,383億15百万円で、前連結会計年度末比で140億34百万円の増加となっております。為替の影響については、USドルの期末日レートが前連結会計年度末に比べ54銭の円安となるなど、約51億円多く表示されております。

〔資産〕

流動資産は、現金及び現金同等物の減少や営業債権の増加等により、前連結会計年度末比で17億51百万円減少し、2,663億80百万円となっております。

非流動資産は、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末比で157億85百万円増加し、6,719億35百万円となっております。

〔負債〕

流動負債は、営業債務や社債及び借入金の増加等により、前連結会計年度末比で34億20百万円増加し、2,170億22百万円となっております。

非流動負債は、社債及び借入金の減少や繰延税金負債の増加等により、前連結会計年度末比で82億92百万円減少し、3,255億23百万円となっております。

〔資本〕

資本は、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上による増加や利益剰余金の配当による減少等により、前連結会計年度末比で189億6百万円増加し、3,957億68百万円となっております。

なお、親会社所有者帰属持分比率は39.6%で前連結会計年度末に比べ1.6ポイント高くなっております。

(3) キャッシュ・フローの分析

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税引前四半期利益、減価償却費及び償却費、法人所得税の支払額等により、営業活動によるキャッシュ・フローは387億6百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出等により、投資活動によるキャッシュ・フローは274億28百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入金の返済による支出、社債の償還による支出等により、財務活動によるキャッシュ・フローは209億78百万円の支出となりました。

これらの結果に、為替換算差額等を加えた当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物の四半期末残高は、438億51百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループの対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配するものの在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針

- 1 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念、企業価値を生み出す源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係などを十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を長期的に確保、向上させる者でなければならないことを基本原則といたします。

また、上場会社である当社の株式は、株式市場を通じて多数の株主、投資家の皆さまによる自由な取引が認められているものであり、仮に当社株式の大規模な買付行為や買付提案がなされた場合であっても、当該当社株式の大規模買付が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。

これら当社株式の大規模な買付等に応ずるか否かの最終判断は、株主の皆さまのご意思に基づいて行われるべきものと考えております。

- 2 基本方針の実現に資する取組み

当社では、多くの投資家の皆さまに長期的に継続して当社に投資していただくため、また、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるために、次の取組みを実施しております。

これらの取組みは、前記当社における会社の支配に関する基本方針の実現に資するものと考えております。

- 2 - 1 企業価値向上への取組み

当社は、2018年3月期を初年度とする4ヶ年の中期経営計画「Ortus Stage 2」にもとづき、構造改革、イノベーション、グローバル化、M&Aの4つを戦略の柱として企業価値向上に取り組んでおります。

- 2 - 2 コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化による企業価値向上への取組み

当社は、当社のコーポレート・ガバナンスの指針となるコーポレート・ガバナンス原則を取締役会で制定しております。当社は、当社グループの持続的な成長及び長期的な企業価値の向上を図る観点から、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会等の立場を踏まえた上で、意思決定の透明性・公正性を確保するとともに、保有する経営資源を有効に活用し、迅速・果敢な意思決定により経営の活力を増大させることがコーポレート・ガバナンスの要諦であると考え、次の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

- (1) 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- (2) 株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働する。
- (3) 会社情報を適時適切に開示し、透明性を確保する。
- (4) 監督と執行を分離することにより、取締役会による業務執行の監督機能を実効化する。
- (5) 当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主との間で建設的な対話を行う。

また、内部統制システムについては、当社は「大陽日酸グループ行動規範」を制定し、当社グループ全体の遵法精神と企業倫理の向上を目指すとともに、チーフコンプライアンスオフィサー（以下、CCO）を任命し、CCOがコンプライアンス委員会の委員長として、当社グループのコンプライアンスの確保に努めております。さらに当社グループのリスクを横断的に管理するリスクアセスメント委員会、保安、安全、品質、環境及び知的財産に関する技術リスクを重点的に管理する技術リスクマネジメント委員会及び情報の管理に関する情報管理委員会を設けて、当社事業に伴うリスクの管理を行っております。

当社は、前記の取組み等を通じて株主の皆さまをはじめ取引先や当社社員など当社のステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにしながら、中長期的視野に立って企業価値の安定的な向上を目指してまいります。

- 2 - 3 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定を支配されることを防止するための取組み

当社は、大規模買付行為を行おうとする者に対しては、その是非を株主の皆さまが適切に判断するために必要かつ十分な情報を求め、併せて当社取締役会の意見等を開示し、株主の皆さまのご検討のための時間の確保に努める等、会社法及び金融商品取引法等関係法令の許容する範囲内で適切な措置を講じます。

- 2 - 4 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、上記 - 2 - 1 及び 2 に記載した各取組みが、 - 1 に記載した基本方針に従い、当社をはじめとする当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益に沿うものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1,380百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,600,000,000
計	1,600,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2017年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2017年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	433,092,837	433,092,837	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	433,092,837	433,092,837	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2017年7月1日～ 2017年9月30日	-	433,092	-	37,344	-	56,433

(6) 【大株主の状況】

2017年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社三菱ケミカルホールディングス	東京都千代田区丸の内1-1-1	218,996	50.57
大陽日酸取引先持株会	東京都品川区小山1-3-26	19,417	4.48
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	16,365	3.78
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町2-2-3	12,627	2.92
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	10,007	2.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	9,949	2.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	9,169	2.12
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1-13-2	7,000	1.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1-8-11	4,760	1.10
大陽日酸持株会	東京都品川区小山1-3-26	3,627	0.84
計	-	311,922	72.02

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数は、すべて信託業務に係るものであります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2017年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 176,600	-	単元株式数は100株であります。
	(相互保有株式) 普通株式 764,100	-	同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 431,907,300	4,319,073	同上
単元未満株式	普通株式 244,837	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	433,092,837	-	-
総株主の議決権	-	4,319,073	-

(注) 1. 単元未満株式には、当社所有の自己株式89株、ニッキフッコー(株)所有の相互保有株式59株、福西産業(株)所有の相互保有株式73株及び(株)証券保管振替機構名義の株式38株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が1,400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数14個が含まれております。

【自己株式等】

2017年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 大陽日酸(株)	東京都品川区小山1-3-26	176,600	-	176,600	0.04
(相互保有株式) 幸栄運輸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	137,000	119,900	256,900	0.06
ニッキフッコー(株)	広島県呉市広白岳3-1-52	80,200	124,800	205,000	0.05
宮崎酸素(株)	宮崎県宮崎市祇園2-140-1	10,000	104,800	114,800	0.03
北関東日酸(株)	栃木県小山市大字横倉新田503	-	74,500	74,500	0.02
埼玉日酸(株)	埼玉県川口市青木3-5-1	-	46,100	46,100	0.01
岡安産業(株)	東京都江東区亀戸6-57-23	29,000	11,000	40,000	0.01
仙台日酸(株)	宮城県多賀城市宮内2-3-2	-	26,000	26,000	0.01
関東アセチレン工業(株)	群馬県渋川市中村1110	-	700	700	0.00
福西産業(株)	大阪府大阪市此花区梅香1-26-9	100	-	100	0.00
計	-	432,900	507,800	940,700	0.22

(注)「他人名義所有株式数」の欄に記載しております株式の名義は全て「大陽日酸取引先持株会」(東京都品川区小山1-3-26)であり、同会名義の株式のうち、各社の持分残高の単元部分を記載しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2017年7月1日から2017年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2017年4月1日から2017年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2017年9月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		52,857	43,851
営業債権		149,979	153,495
棚卸資産		51,935	52,957
その他の金融資産	9	5,533	6,135
その他の流動資産		7,826	9,942
流動資産合計		268,132	266,380
非流動資産			
有形固定資産		379,553	390,822
のれん		123,602	124,855
無形資産		51,305	49,663
持分法で会計処理されている投資		22,958	22,468
その他の金融資産	9	65,178	70,708
退職給付に係る資産		8,443	8,396
その他の非流動資産		709	715
繰延税金資産		4,399	4,303
非流動資産合計		656,149	671,935
資産合計		924,281	938,315

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2017年9月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務		73,046	74,666
社債及び借入金	8, 9	88,720	91,630
未払法人所得税		6,289	6,120
その他の金融負債	9	30,152	29,973
引当金		534	520
その他の流動負債		14,858	14,111
流動負債合計		213,602	217,022
非流動負債			
社債及び借入金	9	263,833	250,450
その他の金融負債	9	5,622	5,463
退職給付に係る負債		4,216	4,319
引当金		5,859	5,970
その他の非流動負債		13,783	13,974
繰延税金負債		40,501	45,345
非流動負債合計		333,816	325,523
負債合計		547,419	542,546
資本			
資本金		37,344	37,344
資本剰余金		52,988	53,037
自己株式		250	252
利益剰余金		261,717	274,528
その他の資本の構成要素		224	6,641
親会社の所有者に帰属する持分合計		351,576	371,300
非支配持分		25,286	24,468
資本合計		376,862	395,768
負債及び資本合計		924,281	938,315

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

(第 2 四半期連結累計期間)

(単位 : 百万円)

	注記	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2016年 4 月 1 日 至 2016年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2017年 4 月 1 日 至 2017年 9 月30日)
売上収益	4	268,782	305,714
売上原価		168,828	191,418
売上総利益		99,954	114,296
販売費及び一般管理費		75,935	86,562
その他の営業収益		1,011	1,539
その他の営業費用		601	1,058
持分法による投資利益		1,516	1,390
営業利益		25,945	29,604
金融収益		808	754
金融費用		2,220	2,677
税引前四半期利益		24,534	27,681
法人所得税		7,206	9,322
四半期利益		17,327	18,359
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		16,469	17,671
非支配持分		858	688
1 株当たり四半期利益			
基本的 1 株当たり四半期利益 (円)	6	38.06	40.83

(第2四半期連結会計期間)

(単位:百万円)

	注記	前第2四半期連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)
売上収益		135,346	154,852
売上原価		84,716	97,210
売上総利益		50,629	57,641
販売費及び一般管理費		37,925	42,988
その他の営業収益		397	673
その他の営業費用		302	682
持分法による投資利益		819	623
営業利益		13,617	15,267
金融収益		167	112
金融費用		953	1,322
税引前四半期利益		12,830	14,057
法人所得税		2,397	3,595
四半期利益		10,433	10,461
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		9,988	10,060
非支配持分		445	401
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	6	23.08	23.25

【要約四半期連結包括利益計算書】
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
四半期利益	17,327	18,359
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	103	4,179
確定給付制度の再測定	0	0
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	2	0
純損益に振り替えられることのない項目合計	101	4,180
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	20,814	3,077
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変 動の有効部分	94	33
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	1,946	188
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	22,855	2,921
税引後その他の包括利益合計	22,754	7,102
四半期包括利益	5,426	25,461
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	5,617	24,543
非支配持分	190	918

(第2四半期連結会計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)
四半期利益	10,433	10,461
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	1,785	2,027
確定給付制度の再測定	0	0
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	4	0
純損益に振り替えられることのない項目合計	1,790	2,027
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	5,612	4,079
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変 動の有効部分	133	10
持分法適用会社におけるその他の包括利益に 対する持分	1,248	178
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	6,727	4,247
税引後その他の包括利益合計	4,937	6,275
四半期包括利益	5,495	16,736
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	5,356	16,192
非支配持分	139	544

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第2四半期連結累計期間(自2016年4月1日至2016年9月30日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金
2016年4月1日残高		37,344	55,545	244	232,877
四半期利益		-	-	-	16,469
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	16,469
自己株式の取得		-	-	2	-
自己株式の処分		-	0	0	-
配当	7	-	-	-	3,896
支配継続子会社に対する持分変動		-	618	-	-
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替		-	-	-	4
連結範囲の変動		-	-	-	-
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	618	2	3,891
2016年9月30日残高		37,344	54,927	246	245,455

その他の資本の構成要素

	注記	在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動の有効部分	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	確定給付制度の再測定	合計	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2016年4月1日残高		14,840	332	10,107	-	5,066	320,457	24,409	344,866
四半期利益		-	-	-	-	-	16,469	858	17,327
その他の包括利益		22,077	94	84	0	22,087	22,087	667	22,754
四半期包括利益		22,077	94	84	0	22,087	5,617	190	5,426
自己株式の取得		-	-	-	-	-	2	-	2
自己株式の処分		-	-	-	-	-	0	-	0
配当	7	-	-	-	-	-	3,896	809	4,705
支配継続子会社に対する持分変動		-	-	-	-	-	618	506	1,124
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替		-	-	3	0	4	-	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	-	-	-
その他の増減		-	-	-	-	-	-	136	136
所有者との取引額等合計		-	-	3	0	4	4,516	1,452	5,969
2016年9月30日残高		36,918	427	10,187	-	27,158	310,322	23,148	333,470

当第2四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年9月30日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金
2017年4月1日残高		37,344	52,988	250	261,717
四半期利益		-	-	-	17,671
その他の包括利益		-	-	-	-
四半期包括利益		-	-	-	17,671
自己株式の取得		-	-	2	-
自己株式の処分		-	-	-	-
配当	7	-	-	-	4,762
支配継続子会社に対する 持分変動		-	49	-	-
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	-	6
連結範囲の変動		-	-	-	104
その他の増減		-	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	49	2	4,860
2017年9月30日残高		37,344	53,037	252	274,528

その他の資本の構成要素

	注記	在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動の有効部分	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	確定給付制度の再測定	合計	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2017年4月1日残高		16,135	64	15,975	-	224	351,576	25,286	376,862
四半期利益		-	-	-	-	-	17,671	688	18,359
その他の包括利益		2,703	33	4,135	0	6,872	6,872	229	7,102
四半期包括利益		2,703	33	4,135	0	6,872	24,543	918	25,461
自己株式の取得		-	-	-	-	-	2	-	2
自己株式の処分		-	-	-	-	-	-	-	-
配当	7	-	-	-	-	-	4,762	641	5,404
支配継続子会社に対する 持分変動		-	-	-	-	-	49	1,117	1,068
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		-	-	6	0	6	-	-	-
連結範囲の変動		-	-	-	-	-	104	25	130
その他の増減		-	-	-	-	-	-	49	49
所有者との取引額等合計		-	-	6	0	6	4,819	1,735	6,555
2017年9月30日残高		13,431	31	20,104	-	6,641	371,300	24,468	395,768

(4)【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益		24,534	27,681
減価償却費及び償却費		18,289	21,443
受取利息及び受取配当金		808	754
支払利息		1,678	2,440
持分法による投資損益(は益)		1,516	1,390
有形固定資産及び無形資産売却損益(は益)		219	242
営業債権の増減額(は増加)		3,438	2,904
棚卸資産の増減額(は増加)		4,769	4
営業債務の増減額(は減少)		6,333	1,346
退職給付に係る資産の増減額(は増加)		42	135
退職給付に係る負債の増減額(は減少)		421	116
その他		1,378	2,234
小計		35,291	45,372
利息の受取額		124	99
配当金の受取額		2,294	2,255
利息の支払額		1,703	2,433
法人所得税の支払額		8,584	6,586
営業活動によるキャッシュ・フロー		27,423	38,706
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出		18,669	24,738
有形固定資産の売却による収入		978	969
投資の取得による支出		226	598
投資の売却及び償還による収入		10	33
事業譲受による支出		77,000	198
その他		3,203	2,896
投資活動によるキャッシュ・フロー		98,110	27,428
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(は減少)		55,361	5,945
コマーシャル・ペーパーの純増減額(は減少)		5,000	-
長期借入れによる収入		22,935	9,217
長期借入金の返済による支出		13,100	17,210
社債の償還による支出	8	-	10,000
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出		1,167	2,086
配当金の支払額	7	3,896	4,762
非支配持分への配当金の支払額		809	641
その他		1,434	1,441
財務活動によるキャッシュ・フロー		62,888	20,978
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響		3,245	205
現金及び現金同等物の増減額(は減少)		11,044	9,495
現金及び現金同等物の期首残高		49,216	52,857
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)		-	363
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額		-	125
現金及び現金同等物の四半期末残高		38,171	43,851

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

大陽日酸株式会社（以下、「当社」という。）は日本国に所在する企業であり、東京証券取引所市場第一部に上場しております。当社の登記している本社の住所は、ウェブサイト（<http://www.tn-sanso.co.jp>）で開示しております。当社及び子会社（以下、「当社グループ」という。）の要約四半期連結財務諸表は9月30日を期末日とし、当社グループ並びにその関連会社及び共同支配の取決めに対する持分により構成されております。当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を展開するほか、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売、不動産賃貸などの事業も行っております。詳細については、注記「4. 事業セグメント」に記載しております。

当社の親会社は、株式会社三菱ケミカルホールディングスであります。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して作成しております。当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たしていることから、同93条の規定を適用しております。

要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

(2) 財務諸表の承認

当社グループの本要約四半期連結財務諸表は、2017年11月10日に、当社代表取締役社長 市原裕史郎によって承認されております。

(3) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(4) 表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(5) 判断、見積り及び仮定の利用

当社グループのIFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行う必要があります。実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は、継続して見直されます。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りが変更された会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識されます。

当社グループの要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、原則として前連結会計年度の連結財務諸表と同様であります。

3. 重要な会計方針

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度において適用した会計方針と同一であります。

なお、各四半期における法人所得税は、見積年次実効税率を基に算定しております。

4. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。なお、報告にあたって事業セグメントの集約は行っていません。

当社グループは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス産業向けなどに国内外でガス事業を行っており、主要製品に関しては、日本、米国、アジア・オセアニアの各地域において、それぞれ生産・販売体制を構築しております。また、ステンレス製魔法瓶など家庭用品の製造・販売、不動産賃貸などの事業も行っております。したがって、当社は、「国内ガス事業」「米国ガス事業」「アジア・オセアニアガス事業」「サーモス他事業」の4つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主要な製品は、以下のとおりであります。

報告セグメント	主要な製品・サービス
国内ガス事業	酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガス、ヘリウム、水素、アセチレン、ガス関連機器、特殊ガス（電子材料ガス、純ガス等）、電子関連機器・工事、半導体製造装置、溶断機器、溶接材料、機械装置、LPガス・関連機器、医療用ガス（酸素、亜酸化窒素等）、医療機器、安定同位体
米国ガス事業	
アジア・オセアニアガス事業	
サーモス他事業	家庭用品、不動産賃貸

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。なお、セグメント間の内部売上収益又は振替高は、主に市場実勢価格に基づいております。

(2) 報告セグメントごとの売上収益及び損益の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年9月30日）

（単位：百万円）

	国内ガス事業	米国ガス事業	アジア・オセアニアガス事業	サーモス他事業	合計	調整額（注1）	連結
売上収益							
外部顧客への売上収益	152,435	65,134	37,757	13,455	268,782	-	268,782
セグメント間の内部売上収益又は振替高	3,292	3,700	454	630	8,078	8,078	-
計	155,727	68,835	38,211	14,086	276,860	8,078	268,782
セグメント利益（注2）	14,190	4,743	2,578	5,060	26,573	823	25,750

（注）1．セグメント利益の調整額 823百万円には、セグメント間取引消去 47百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 776百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

2．セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出したコア営業利益で表示しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

(単位: 百万円)

	国内ガス事業	米国ガス事業	アジア・オセアニアガス事業	サーモス他事業	合計	調整額(注1)	連結
売上収益							
外部顧客への売上収益	157,479	84,378	49,546	14,310	305,714	-	305,714
セグメント間の内部売上収益又は振替高	6,319	5,012	963	666	12,962	12,962	-
計	163,798	89,390	50,510	14,977	318,676	12,962	305,714
セグメント利益(注2)	14,334	6,421	4,842	4,649	30,248	942	29,305

(注) 1. セグメント利益の調整額 942百万円には、セグメント間取引消去 261百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 681百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに配分していない基礎研究費用等です。

2. セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(事業撤退や縮小から生じる損失等)を除いて算出したコア営業利益で表示しております。

セグメント利益から、税引前四半期利益への調整は、以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
セグメント利益	25,750	29,305
固定資産売却益	195	299
営業利益	25,945	29,604
金融収益	808	754
金融費用	2,220	2,677
税引前四半期利益	24,534	27,681

5. 企業結合

前第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

産業ガス事業の取得

(1) 企業結合の概要

相手企業の名称及びその事業の内容

相手企業の名称 Air Liquide Industrial U.S. LP 及びAirgas, Inc.

事業の内容 セパレートガス事業、炭酸ガス事業、パッケージガス事業、亜酸化窒素事業

取得日

2016年9月8日

企業結合を行った主な理由

米国東部及び中西部でのセパレートガス事業のネットワークを拡大することにより、ナショナルサプライヤーとしての地位を獲得し、メーカーポジションをより強固にして、全米での安定供給・顧客信用力を向上、さらには、炭酸ガス事業における生産能力強化、アラスカ州でのパッケージガス事業、亜酸化窒素事業への参入により、新領域で事業を伸長させ、世界最大の産業ガス市場である米国において、積極的な事業拡大を行い基盤事業の強化並びに収益性向上を目的としています。

被取得企業の支配の獲得方法

当社100%子会社であるMatheson Tri-Gas, Inc.がAir Liquide Industrial U.S. LP 及びAirgas, Inc.の米国での産業ガス事業の一部並びに関連する事業資産を事業譲受により取得したことによります。

(2) 支払対価の公正価値

	(単位：百万円)
	取得日 (2016年9月8日)
現金	77,402
支払対価合計	77,402

(3) 取得資産、引受負債及びのれん

	(単位：百万円)
	取得日 (2016年9月8日)
流動資産	
棚卸資産	406
その他	369
非流動資産	
有形固定資産(注2)	28,911
無形資産(注2)	24,502
取得資産	54,188
流動負債	43
非流動負債	3,744
引受負債	3,787
取得資産及び引受負債(純額)	50,401
のれん(注3)	27,001

(注) 1. 暫定的な金額の修正

支払対価は、取得日における公正価値を基礎として、取得した資産及び引き受けた負債に配分していません。当第2四半期連結会計期間において、支払対価の配分が完了したことにより暫定的な金額を修正しております。当該修正による影響額に重要性はありません。

2. 有形固定資産及び無形資産の内訳

有形固定資産は、主に機械装置及び運搬具23,346百万円であります。無形資産は、顧客に係る無形資産24,502百万円であります。

3. のれん

のれんの主な内容は、個別に認識要件を満たさない、取得から生じることが期待される既存事業とのシナジー効果と超過収益力であります。また、のれんは、全額税務上一定期間にわたり損金計上されます。

(4) 取得関連費用

取得関連費用は、125百万円であり、前第2四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書上、「販売費及び一般管理費」に含めております。

(5) 当社グループの業績に与える影響

取得日以降における被取得企業の業績が、前第2四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書に与える影響額に重要性が乏しいため、記載しておりません。

企業結合が、前第2四半期連結累計期間期首である2016年4月1日に行われたと仮定した場合の売上収益及び当期利益(プロフォーマ情報)は、それぞれ279,966百万円及び18,384百万円であります。なお、当該プロフォーマ情報は監査証明を受けておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

重要な企業結合は発生しておりません。

6. 1株当たり四半期利益

基本的1株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	16,469	17,671
期中平均普通株式数(千株)	432,767	432,763
基本的1株当たり四半期利益(円)	38.06	40.83

(注) なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

	前第2四半期連結会計期間 (自 2016年7月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	9,988	10,060
期中平均普通株式数(千株)	432,767	432,763
基本的1株当たり四半期利益(円)	23.08	23.25

(注) なお、希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

7. 配当

前第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2016年6月21日 定時株主総会	普通株式	3,896	9	2016年3月31日	2016年6月22日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2016年11月2日 取締役会	普通株式	3,896	9	2016年9月30日	2016年12月1日

当第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月20日 定時株主総会	普通株式	4,762	11	2017年3月31日	2017年6月21日

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年11月1日 取締役会	普通株式	4,762	11	2017年9月30日	2017年12月1日

8. 社債

前第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

償還した社債は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

				償還金額	
第10回無担保社債	期間	2012年 - 2017年	利率	0.437%	10,000

9. 金融商品

金融商品の公正価値

金融商品の公正価値ヒエラルキーは、レベル1からレベル3までを以下のように分類しております。

レベル1: 同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格により測定された公正価値

レベル2: レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3: 重要な観察可能な市場データに基づかないインプットを含む評価技法から算出された公正価値

金融商品のレベル間の振替は、期末日ごとに判断しております。前連結会計年度及び当第2四半期連結累計期間において、レベル間の重要な振替が行われた金融商品はありません。

(1) 経常的に公正価値で測定する金融商品

公正価値で測定している金融商品は、以下のとおりであります。

前連結会計年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	35,218	-	16,548	51,767
デリバティブ資産	-	214	-	214
合計	35,218	214	16,548	51,982
負債				
デリバティブ負債	-	255	-	255
合計	-	255	-	255

当第2四半期連結会計期間(2017年9月30日)

(単位:百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
株式及び出資金	41,150	-	16,608	57,759
デリバティブ資産	-	196	-	196
合計	41,150	196	16,608	57,955
負債				
デリバティブ負債	-	198	-	198
合計	-	198	-	198

株式及び出資金

レベル1に分類される市場性のある株式の公正価値は、同一の資産又は負債の活発な市場における無調整の公表価格によっております。

レベル3に分類される活発な市場における公表価格が入手できない非上場株式の公正価値は、合理的に入手可能なインプットにより、類似企業比較法又はその他適切な評価技法を用いて算定しております。なお、必要に応じて一定の非流動性ディスカウント等を加味しております。

デリバティブ資産及びデリバティブ負債

レベル2に分類されるデリバティブ資産及びデリバティブ負債の公正価値は、取引先金融機関から提示された価格又は為替レート及び金利等の観察可能なインプットに基づき算定しております。

レベル3に分類される金融商品は、適切な権限者に承認された公正価値測定に係る評価方法を含む評価方針及び手続に従い、評価者が対象となる各金融商品の評価方法を決定し、公正価値を算定しております。その結果は適切な権限者がレビュー、承認しております。

レベル3に分類された金融商品の増減は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
期首残高	16,366	16,548
その他の包括利益(注)	543	144
購入	6	550
売却	4	9
連結範囲の変動	-	612
その他の増減	48	13
四半期末残高	15,873	16,608

(注)要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」に含まれておりません。

(2) 償却原価で測定する金融商品

償却原価で測定している金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりであります。

前連結会計年度(2017年3月31日)

(単位：百万円)

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
負債					
長期借入金	252,580	-	252,020	-	252,020
社債	65,000	-	65,171	-	65,171
合計	317,580	-	317,192	-	317,192

当第2四半期連結会計期間(2017年9月30日)

(単位:百万円)

	帳簿価額	公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
負債					
長期借入金	245,687	-	246,437	-	246,437
社債	55,000	-	55,090	-	55,090
合計	300,687	-	301,527	-	301,527

償却原価で測定する金融商品については、長期借入金及び社債を除いて、公正価値は帳簿価額と合理的に近似しております。

長期借入金

長期借入金の公正価値については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値に基づき算定しております。

社債

社債の公正価値については、市場価格に基づき算定しております。

10. 後発事象

該当事項はありません。

2【その他】

2017年11月1日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....4,762百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....11円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2017年12月1日

(注) 2017年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2017年11月10日

大陽日酸株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 和臣 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寒河江 祐一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北村 康行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大陽日酸株式会社の2017年4月1日から2018年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2017年7月1日から2017年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2017年4月1日から2017年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、大陽日酸株式会社及び連結子会社の2017年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。